

棚田に吹く風

2013
秋
Autumn
季刊

- 2 特集
頑張ってる！
棚田のホームページ
- 5 フォトエッセイ
棚田ごよみ二十四節気
- 6 棚田・里山からのたより
国定公園・氷ノ山にある棚田
鳥取県若桜町春米
- 8 棚田ライダー
棚田の逸品
- 9 棚田博士は今日も行く
背炙り峠道から見る棚田
山形県村山市中沢
- 12 会員のひろば
- 14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき
- 15 Project Report





頑張ってる! 棚田のホームページ

ホームページや facebook などのソーシャルネットワークを有効に利用して、棚田の情報を発信する団体がどんどん増えていきます。もともと、美しい写真素材や豊かな地域性、そして伝統的な情報の宝庫である棚田は、インターネットの世界でも魅力的なコンテンツになりつつあります。今号は、編集部おすすめの“頑張ってる!棚田ホームページ”を紹介します。

棚田界で最も新しい
インターフェイス!

上山集落

NPO 法人英田上山棚田団

<http://ueyama.shu-raku.jp/>



岡山県の美作市上山を拠点に活動する NPO 法人英田上山棚田団の運営するホームページ。Facebook、twitter など最新の SNS を駆使し、見やすさなどなんのその! とにかく遊び心はじける若さ満載のインターフェイスです。地域に若者が関わってる感がとても伝わり、こんな集落があるなら行ってみたいと思わせる魅力あるホームページです。

お米作りに特化したカッコいい
オーナー制度紹介サイト

OTARIMURA.NET 田んぼオーナー制度

小谷村役場振興課農林係

<http://www.otarimura.net/tanada/index.html>



長野県の豪雪地帯、小谷村のオーナー制度を紹介するホームページ。独特のデザイン感覚で、古き良き田園風景を洗練されたカッコいいスタイルに表現しています。活動風景の写真がとにかくいっぱい。しかも見やすくまとめられています。最近更新が少ないのが残念です。ぜひ「よりみちコラム」など続けて欲しい!

棚田に必要な
情報満載!

棚田へ行こうよ!.net

NPO 法人せんがまち棚田倶楽部

<http://www.tanada1504.net/>



静岡県菊川市上倉沢にある「せんがまちの棚田」のホームページは、とにかく情報量が多い! オーナーさんである若いウェブデザイナーが自らの体験も織り込みながら、棚田に必要な情報を楽しく紹介しています。イラストによる〈服装・持ち物ガイド〉や〈棚田の一年〉は必見。昭和 40 年代の写真を使って棚田の歴史も語るなど、かゆいところに手の届く気遣いがいっぱいです。

棚田ネットワーク担当
ウッチーがチェック!



まだまだあります! 頑張ってる
棚田のホームページ

恵那市坂折棚田保存会

<http://sakaori-tanada.com/>



岐阜県恵那市の坂折棚田のHP。棚田マイちゃんが歓迎してくれます。トップの写真スライドショー、美しいです。

池谷・入山ガイド

<http://www.iketani.org>



新潟県十日町市池谷集落のHP。多くのプロジェクトを立ち上げ、メディアにもひっぱりだこの、地域おこし模範!?

石部棚田へ行こうよ!

<http://ishibu-tanada.com/>



静岡県松崎町石部棚田のHP。FB ページもあり、随時更新。

いこま棚田クラブ

<http://www1.kcn.ne.jp/~mkosaka/>



奈良県生駒市いこま棚田のHP。ページ数も多く情報が豊富です。更新もまめで素晴らしい!

明日香の未来を創る会

<http://www.asukamirai.org/index.html>



奈良県明日香村奥飛鳥地域のHP。今どきのワイドなページ作り。トップの写真ギャラリーも綺麗!

平尾 里山・棚田守り人の会

<http://oginosato.jp/moribitonokai/owner/bosyu>



滋賀県大津市仰木平尾の棚田のHP。FB ページもあり、オーナー制度情報が充実。

小千谷市の棚田を守る会

<http://www.tanada.gr.jp>



ドメインが「tanada.gr.jp」! 気合入ってます。シンプルですが、更新者の熱心さが見えてきます。

棚田倶楽部(大山千枚田)

<http://www.senmaida.com>



千葉県鴨川市大山千枚田のHP。検索でも常に上位。ライブカメラで「現在」の棚田、見られます。

岩座神ネット

<http://isarigami.net/>



兵庫県多可町岩座神の棚田のHP。見やすいし、イベント情報等の更新も随時行っています。

みんなで繋がろう!

棚田facebookの輪



気軽に更新出来て利用者のつながりがスムーズな、いま最も旬な情報発信ツール。棚田 facebook ページは「いいね」どれくらい? ※ちなみに、棚田ネットワークの「いいね!」は344です。



いいね! ランキング (2013.10.10 現在) ※棚田の情報を発信している保全団体をピックアップ

1. 英田上山棚田団 (岡山県美作市)	993
2. 池谷・入山集落 (新潟県十日町市)	541
3. 石部棚田へ行こうよ! (静岡県松崎町)	255
4. 袖志の棚田再生プロジェクト (京都府京丹後市)	208
5. 棚田清流の会 (山口県周南市)	185
6. 内成棚田 (大分県別府市)	142
7. 恵那市坂折棚田保存会 (岐阜県恵那市)	126
8. 明日香の未来を創る会 (奈良県明日香村)	113
8. 田土棚田クラブ (岡山県和気町)	113
10. 大山千枚田保存会 (千葉県鴨川市)	112
11. 金山棚田を守る会 (岩手県一関市)	93
12. よかっぺいばらき (茨城県つくば市)	89
13. 岩座神ネット (兵庫県多可町)	53
14. 伊万里 すみやま棚田守る会 (佐賀県伊万里市)	44
15. 久留女木の棚田を守る会 (静岡県浜松市)	40



全国の棚田オーナー制度紹介サイト「棚田百貨堂」が始まります!

棚田ネットワークでは、今秋、全国 80 か所へのぼる棚田オーナー制度の紹介サイトをオープンします。その名は「棚田百貨堂」! 当団体きってのデザイナーチームがオーナー制度を楽しく魅力的に紹介して行きます。棚田のゆるきやら・ヨネちゃんも登場! 掲載希望も随時受け付けています。ぜひ、覗いてみてください。



ヨネちゃん

【棚田百貨堂～棚田オーナー募集地域紹介サイト】 <http://www.tanadaowner.com/>



棚田ごよみ 二十四節気

写真・文 青柳 健二

霜降

そうこう

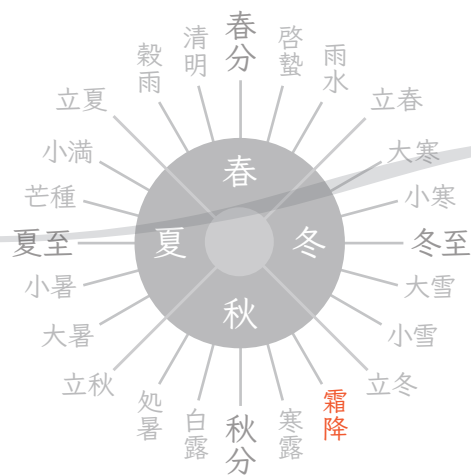
二十四節気の第十八番目が「霜降」で、初候が「霜始降」。今年旧暦九月十九日（新暦十月二十三日）に当たる。四国の山中を走っていたとき、収穫の終わった棚田に並ぶわらボッチをたくさん見つけて思わず車を停めた。偶然なのだろうが、まるで意識して置かれたものを感じる。農作業をしている人に「アート」と言ったら怒られてしまうかもしれないが、生まれてからこのかた、これほどわらボッチに魅了されたことはなかった。霜が降りて、白い三角頭巾をかぶった「わらボッチ星人」に変身する姿を想像してしまった。



高知県
土佐町の棚田

青柳 健二 Profile

1958年、山形県河北町生まれ。山形大学工学部卒業。日本を含むアジア各地の稲作文化、とくに棚田とそこに暮らす人々を撮影し、新聞、雑誌、写真展で発表。主な著書は『日本の棚田百選』（小学館）、『棚田を歩けば』（福音館書店）、『花咲（わら）う』（廣済堂出版）など。2012年には棚田ネットワークの旧暦棚田ごよみ製作に全面協力。
<http://www.aoyagikenji.com>



棚田・里山
からの
たより



国定公園・氷ノ山にある棚田 雄大な自然の中に：棚田を守り地域に活力を

若桜町の概要

若桜町は鳥取県の東南端に位置し、兵庫県と岡山県にも接しております。町は中国山地の東にたたずむ山里で、特に国定公園氷ノ山（標高1510メートル）は若桜氷ノ山スキー場があり、豊富な積雪量を誇り、県西部の大山とともに西日本のスキーマッパでもあります。

スキー場は古く、昭和37年に800メートルにリフトが完成してからゲレンデスキー場として生まれかわりました。また、昭和63年には町営の樹氷スノーピアのスキー場がオープン、さらに平成11年には宿泊とスポーツの拠点「氷ノ山高原の宿氷太くん」、自然をまるごと楽しみながら体感できる日本最大級の夜の森のジオラマ「氷ノ山自然ふれあい館響の森」がオープンしました。『わかさ氷ノ山ふれあいの里』は、県内最大規模の「わかさ氷ノ山キャンプ場」「スキー

場」、自然探勝路、登山道など、四季を通じて楽しめる和みの里であり、鳥取県東部を代表する観光スポットです。

春米地区

兵庫県に接する春米地区は、県境にそびえる氷ノ山の西斜面中腹、標高600メートルに位置する高所に点在する集落です。スキー場付近にある棚田は三地区にわかれ拓かれており、平成11年8月、この棚田が「日本の棚田百選」に認定されました。町が経営する宿泊施設「氷太くん」のレストランのベランダから眺めると、百選の棚田を一望することができます。近年、きれいな水、昼と夜の寒暖の差のある高冷地の米はおいしいと評判になり、「棚田米」が脚光を浴びております。

今日までこの棚田を維持してきましたが、高齢化の波がおし寄せ、若年層の流出が目立って、維持す

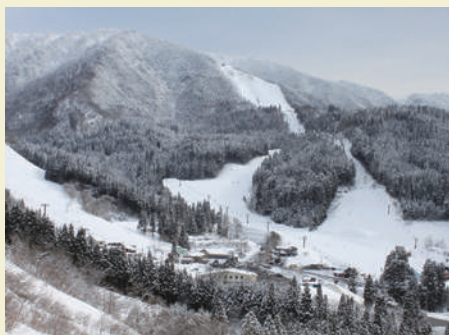
わかさちようつくよね
鳥取県若桜町 春米

ることが困難となってきています。

これまでの取り組み

平成10年頃から県、若桜町が中心になって若桜氷ノ山棚田支援隊を毎年結成して、春の田植え、畦の草刈り、稲刈り等を行ってきました。

しかしながら、支援隊と言えども鳥取市や郡内の公務員の関係の方が多く、本当の市民による棚田支援隊ではなく、年々参加者が減少してしまい、いつともなしに打ち切られました。そんな中、鳥取県農山村ボランティアの「NPO



上：初夏の春米棚田／下：氷ノ山スキー場

棚田へのアクセス

【公共交通】 JR因美線郡家駅より若桜鉄道若桜駅へ。若桜駅より町営バス（つく米方面）つく米下車、約徒歩1km

【自動車】 鳥取市方面から：国道29号、国道482号線で若桜町・氷ノ山スキー場方面へ、約1時間
岡山市方面から：国道53号、29号、482号へ、約3時間
中国自動車道山崎ICより：国道29号、482号利用、約1.5時間
（鳥取自動車道河原ICより連絡道、国道29号、482号も可）

お問い合わせ

つく米棚田ファーマーズ 代表 奈羅尾寿夫
Tel.0858-82-1850

今後の課題

法人学生人材バンク」スタッフの支援により田植えの準備などの作業をお手伝いしていただき、棚田オーナー制度による活動が復活しつつあります。

現在、春米地区では高齢化が進み労働力の確保が段々と困難になってきており、それに加え、鳥獣による水稲、果樹、野菜等や森林被害に悩まされています。特に近年はイノシシ・鹿の被害が増加傾向にあり、有害駆除、猟友会の補助、防護柵の設置補助、鈴の配布をし

て来ましたが一向に被害は衰えず、農家の生産意欲が減退して棚田等の耕作放棄地が増大し、集落で維持することができず、棚田の中に歯抜けの遊休農地が目立ってきております。

一方で、最近では捕獲した有害獣を活用した鹿力レー、猪力レー、薫製も商品化され、明るい材料にもなってきております。さらには、評判の「棚田米」も含め道の駅「桜ん坊」を中心に売り出したり、「若桜米」として東洋ライスより東京の「タニタ食堂」へも提供されています。

今後においては、氷ノ山の棚田を近郊の市民農園として活用し、遊休農地の解消、都市との交流、リピーターから移住へと導き地域の活性化を図りたいと考えています。季節とともに変化を見せる棚田の素晴らしい景観と、この雄大な自然をいつまでも守り続けたいと思います。

つく米棚田ファーマーズ事務局

鳥取県・若桜町





静岡県松崎町石部棚田にて

棚田ライダー

ひたすら棚田を求めて
走り続ける…人呼んで
「棚田ライダー」
今日もどこかの棚田に
そいつはやってくる!

棚田ライダー1号 竹内 ヒカル(東京都世田谷区)

この度は、初代棚田ライダーの大役を仰せつかり大変光栄で
ございます。棚田歴は2012年春の伊豆・石部棚田の復田か
らと、まだ2シーズンの若輩者でございますが、ひたすら
お引き立てのほどを。棚田ライダーってなに?という疑問があら
りかと思えます。実は特に訳はないので、深く追及されると困る
のですが、初っ端ですしそこを少し考えてみたいと思います。

ライダーというからには単車がございます。この乗り物は、
昔は実用として生活にとけ込み、とても愛される存在でありま
した。しかし昨今では、やれ危ない、いい歳して大人げない、
思ってるほどカッコよくない、とあまり陽の当たらない存在で
す。「趣味はバイク」と言ったところで、いい顔はされない。さ
やかな単車の旅をしようにも、家族には白い目で見られ、肩身
の狭い思いをしている…。

でもですね、アラビアのロレンスやサン・テグジュペリがライ
ダーであつたように、本当はとても文化的な人間の乗り物だ
と思うんです。

とまあそんな悶々とする単車乗り筋の光を示したのが
「棚田」でした。その日から私は、「棚田に行く」と声高にいい、
米作りという崇高な営みのために走ることにしたのです。大義
は家族の白い目線もついに変えました。だって、米作り以上に
正しい行いなどあるでしょうか? もはやこれは出勤なのダツ!

そうして着いた棚田は、浮世でかましいTPOとか落ち目
の資本主義とは遠い次元にあつて、美しい
孤高の光を放っていました。なに?収穫量
は半分なのに手間は倍?経済的にはや
らないほうが得?

棚田は、そんな野暮はどこ吹く風、武士
は食わねど高楊枝よという風情でゆつくり
と、こう言われました。

「大事なものはそこじゃあねえのさ。簡単に
は教えられねえがな。」

言葉遣いが落語チックなのは、たぶん棚
田は年寄りだからなのでしょう。けれど、
棚田ライダーの使命は、その「大事な」を
探すことなのだ…。

それは、これからの世界を生き抜くため
の、とても大切なことに違いありません。



精魂込めてつくった棚田
米と美しい水、清酒はフ
ルティでフレッシュな味
わいが特徴。米焼酎はすっ
きり香ばしく、まろやか
な味わいが特徴です。

徳島県上勝の棚田を守るために!
昭和52年より地域の公共事業を軸に土木事業を担ってまいり
ました。棚田の景観をこの先もずっと守っていききたい、上勝をもつ
と元気にしたい、そんな想いを強くもって新たに酒販事業部、
酒販卸部、農業部を発足。この事業をスタートさせました。
社にて休耕田を復田。約1畝を作付。次年度より酒造好適
米の作付予定。この取り組みを通じて消費者への安心安全な商
品の提供、棚田の保全、農業後継者の育成、上勝の活性化に
微力ながら貢献できたかと考えています。

特選

棚田の逸品

第二回
上勝の棚田のお酒

上勝の棚田米と湧水と負けん気でこっしやえた 純米吟醸原酒(右) 720ml 小売価格1,575円
上勝の棚田米と負けん気でこっしやえた 米焼酎(左) 720ml 小売価格1,155円

株式会社 高鉾建設 酒販事業部/酒販卸部 Tel.0885-44-1388
<http://sake-takahoko.com> ← HPでこちらのお酒を購入できます。

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

背炙り峠道から見る棚田

山形県村山市中沢



なかしま みつひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

るビューポイント2の看板付近か
ら西を望めば眼下にひろがる中沢
棚田の全体を俯瞰できる。

比較的緩い傾斜9分の1の斜面
にあるため、100mの高さから見
下ろすと段差がないようにみえる。

2本の幹線の農道が東西に走り、
その両側に棚田が並んでいるため、
ほぼ4列になっている。1枚の面
積は大部分が5〜10mほどの大き
さ、形状はほとんどが方形である。
個人により、業者に委託して畝町
直しが行われたというから、その
結果と思われる。下に降りて棚田
のなかを歩いてみると、面積が1
〜2mの未整備の狭い棚田も残っ

村山市は山形盆地の北部、果樹栽
培が盛んな田園都市。中沢は村山市
の中心市街地楯岡の北5kmにある
大字楯山の一集落、地元の人が親し
みを込めて仰ぎ見る標高1015mの
甑岳こしだけの北西麓にある。中沢の棚田
は山形県の棚田20選に選ばれてお
り、東北の名湯銀山温泉へ向かう背
炙り峠あひへの道から眺めると一望に収
めることができる。

**谷底平野を埋める棚田
行政事業でない畝町直し**

2013年7月上旬、山形県が
主催した農山漁村元気づくり応援
フォーラム2012で出会った地
域おこしのリーダー鈴木忠司さん
の招きで中沢を訪ねた。山形新幹線
村山駅から中沢までの公共交通機
関はなく、1日7便運行している

尾花沢行の山交バスに乗り、途中
の林崎で下車、2kmほど東へ向かっ
て歩かなければならない。車を利用
する場合、最短のルートは駅前
から東へ直進、駅前交差点を左折、
旧国道13号を北上する。鶴ヶ町交
差点を右折、銀山温泉へ向かう県
道29号に入り、楯岡湯沢、行川なめりかわの
集落を過ぎると、山が迫り盆地の
東縁、山麓の集落中沢に至る。

棚田は、中沢の集落がある谷と
は高さ50mほどの小山で隔てられ
た最上川の支流大日川に沿う谷幅
300mの谷底平野を埋めるよう
にして分布、その面積は中山間地
域等直接支払の対象面積から推測
するに17haほどである。集落の入
口、標高180m地点で左折する
県道29号、背炙り峠へ向かう坂道
を100mほど上ったところにあ



しており、事業で行われた圃場整備ではないことが判る。土坡の高さも1畝前後はあり、棚田らしく見える。一部の転作田ではダイズが栽培されていた。

高校卒業以来ずっと働きながら農業を手伝う

鈴木さんは62歳、奥さん64歳、現在は介護施設に入っている父親94歳、市内の水道施設会社に勤める長男39歳、看護師の嫁38歳の5人家族。父親は第二次大戦の激戦地硫黄島の生き残り、アメリカで捕虜生活を送った後帰ってきたそうだ。硫黄島では2万数千人の日本軍守備隊のうち生存者はわずか5割、1000名といわれる。したがって、その他の条件を加味すれば、戦後生まれの鈴木さんの存在自体奇跡に近いといわなければならない。

高校卒業と同時に就農、数年間は水稻栽培と養蚕に励んだ。しかし、安い中国産の繭が輸入されるようになり、繭の価格が1キ当たり1500円に下落した時に農業専従を止め、新庄に本社を置く建設会社に入社、60歳まで重機類の

運転手として働き、会社の吸収合併を機に退職した。この間、両親が健在の時も休日や朝晩農作業を手伝い、父親が働けなくなってきたからは夫婦で農作業を担う兼業農家だった。現在は米・サクランボ・ナメコを生産する農業専従者であり、地域おこしの任意団体ヴィレツジクラブの代表、中山間地域等直接支払の地区代表。奥さんは道の駅で働き、息子夫婦もほとんど手伝わないので、独りで農作業を担う筋金入りの百姓だ。

農地は水田2畝を所有、うち60坪、3枚は平場の水田、残り1・4畝、17枚が棚田なので1枚が8坪ほどの大きさである。そのほか集落内の3戸の農家から作らなくなった棚田1畝、16枚を10坪当たり玄米60



1：上から見ると平らに見えるが…／2：近寄って見れば段差がある／3：複合経営の柱のひとつ、サクランボの木／4：棚田番長・鈴木さん



キの小作料で借り受け耕作している。機械類はトラクター（24馬力）、乗用5条田植機、2条刈コンバインを所有。これらをフルに活用して投資額に見合う働きをさせるため10坪当たり8000円で田起こし、田植え、稲刈りの作業も受託している。共用の機械類として畦塗機と肥料散布機があり、前者については6戸が利用、2日で作業を終える。鈴木さんは畦塗機を操作し、その労賃として1日当たり3万円を中山間地域等直接支払の集落保留分から受け取っている。

こだわりの米づくりと複合経営

米作りにはかなりのこだわりを持っている。まず育苗も自分で行

い、500箱を育て、播種の手伝いをしてくれた人には1箱600円で分与。品種は、現在山形県が力を入れて売り出しているつや姫ではなくササニシキ。鈴木さんによれば、つや姫は10坪当たり8俵の収量、倒伏は少ないが味が劣るといふ。これに対し、ササニシキは10坪当たり9俵の収量、倒伏はするが味が抜群によく、冷や飯でも味が落ちないと仰しやる。

栽培方法も拘っている。集落内の畜産農家が提供する牛糞を3分の1の水田に用い、有機減栽培を行っている。さらに、そのうちの50坪については山形県特有の杭掛けによる天日乾燥をして収穫する。このようにして手間をかけて栽培されたササニシキは「背炙りの詩」という商品

名で2㎡1000円、道の駅で販売される。

サクランボは15本を所有、6月下旬から7月初旬にかけての1週間が収穫のピーク。この間集落の男3名を雇用、新潟県柏崎市で所帯を持つ次女が毎年収穫を手伝うため孫を連れて帰郷するので、5名で朝4時半から6時半までの2時間摘み取り作業を行う。昼間は娘さんがサイズに関係なく、色合いのみで選別、箱詰めをし、鈴木さんは送り状の宛名を書き、午後4時に発送業者に渡すのが日課だという。鈴木さんにとってはサクランボも大事な作物であるが、それ以上にサクランボのお蔭でたったひとりの孫に会えることを楽しみにしているようだ。孫の話になる



上：「道の駅むらやま」の直売所／下：こちらにはトマト、かぼちゃ、米などが並ぶ

と途端にめろめろになってしまふ。

経営の柱であるナメコ栽培は、15年ほど前、地域おこしグループヴィレッジクラブが立ち上げられてから始まった。栽培に国有林のブナを原木として利用するため、その払い下げの受け皿として団体を作る必要があった。当初集落内の仲良しグループ22名で出資金1株1万円以上、100株で結成され、現在は8名、鈴木さんは6株を所有し代表になっている。

ナメコの栽培はクラブでも行われるが、個人による栽培が中心である。鈴木さんは国有林内で原木1000本に毎年3万個の植菌を行い、その場に寝かせている。原木は普通7年間利用できるといわれるが、5年で新しい原木に交換している。収穫期

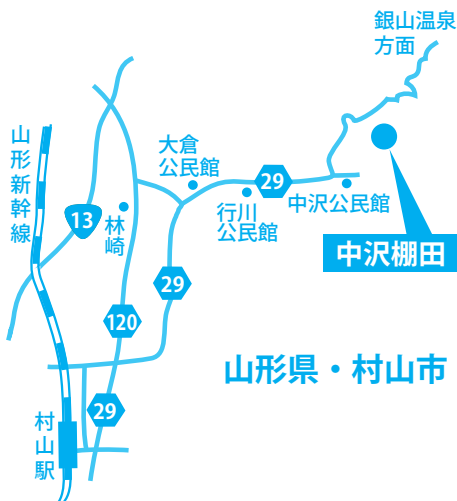
は9月中旬～11月上旬の秋のみ。最盛期は10月10日からの20日間、この期間のみ集落の男3名を雇用し、それ以外は一人で採集するそうだ。

これらの生産物は、農協や特別の顧客に出荷される他は村山市の余暇開発公社が経営する道の駅に出店販売されている。売上高の2割を公社に納めることになっており、奥さんが売り子として頑張っている。売り場は寒い季節は屋内、それ以外は屋外にテントを張り、自家産の農作物の他、集落で生産される野菜や果実類が並べられる。出店は10時から

夏17時30分まで、冬17時まで、年間200日以上というから、家事を担った上だとするとかなりハードな仕事、したがって鈴木さんは奥さんに一目置いている。

中沢では鈴木さんの事例でみるように、米の他サクランボやナメコなどを栽培する複合経営によって棚田が守られている。助成金を獲得して新しい事業の展開が考えられているヴィレッジクラブの活動が継続されれば、今後も棚田の保全是盤石と考えてよいであろう。

中沢の棚田へのアクセス



山形県・村山市

【公共交通】村山駅前で尾花沢行（山交バス）に乗車
約10分、林崎バス停で下車。県道29号線
沿いに徒歩約30分

【自動車】村山駅前から県道29号線で約6km、
中沢公民館を目標に進む

「よかつぺいばらき」の活動

茨城県つくば市

NPO法人 よかつぺいばらき 理事長 奥田 夏樹



左：6月2日に行われた棚田の手植え会の様子
右：8月30日。ほぼすべてが開花しました

自然と人間、人と人との絆を大切にできる持続可能な社会に向けて、小さな成功例を積み上げたい。霞ヶ浦と筑波山に見守られた茨城県南部の土浦市・つくば市を中心にNPO法人「よかつぺいばらき」は活動しています。キーワードは農・食・絆。耕作放棄地のなかでも作物を作って売る農業の点では効率が悪いが、里山の生態系としては貴重な場所の活用、ローカルエコビジネス起業支援、コミュニティスペース支援の3つの柱となる事業を行っています。

特に耕作放棄地活用事業では、持続可能な社会の枠組み内で行う本来農業を目指して遺伝子組み換えではない地方品種の大豆栽培、自家採種、化学肥料や化学物質の農業などにできるだけ依存しない農、こうした活動を地域内の物質・エネルギー循環系を活かしながらかねる仕組みづくりを目指しています。

田んぼについては活動初年となった昨年は、約15年間放置されていた1反ほどの水田を借り、長さ数メートルにも及び繁茂する雑草の草刈りから再生を始め、無肥料減農薬(除草剤1回)でコシヒカリの栽培を行いました。水を入れてもすぐに抜ける、干そうとしても乾かない壊れた水田で、本格的な農業機械もない、経験もない環境での挑戦でした。「できるわけない」と言われることもありましたが、そこは生き物です。植えて、それなりに世話をすれば、ちゃんと育つ。いきなりプロの農家さんと同じ品質

の米を同じ収量得ようというわけではありません。「植えて世話をすれば、それなりに成果は出る」ことがわかりました。

また今年から、土浦市小野地区で棚田を3反預かることになり、山田錦を栽培しています。収穫物は、当NPO会員でもある地元酒店さんのプロデュースで、地元で育った米を使い、地元の蔵で酒造りを行う活動に使用します。10月上月中旬に稲刈りをしたのち、冬には仕込み体験会なども行う予定です。

つくば・土浦市を含む霞ヶ浦流域では、通常、霞ヶ浦用水が使われていますが、私たちの棚田では天然の沢水を利用しています。良い米を作るうえで温度管理上の困難もありますが、水だけでなく様々な生物や物質の循環系に、より深く関わることができるので、里山の生態系管理上は、より面白い田んぼになるのではと期待しています。

最寄りのつくばエクスプレスつくば駅、常磐線土浦駅までは都心から1時間～1時間半ほどです。気軽に農体験をするもよし。自分が好きに育てる菜園を持つもよし。是非、一度、おいでください!

■NPO法人よかつぺいばらき

Tel. 080-4341-4027

HP <http://yokappe.eco.coocan.jp/>

E-mail yokappe.ibaraki@gmail.com

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声8000字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて) 〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1ハル一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています。↓ hiroba@tanada.or.jp

会員レポート

2年目のライトアップ・イベント

大分県豊後大野市 山浦陽一

昨年(2019年)に続き、今年も大分県豊後大野市の緒方町小原地区で8月11日に棚田ライトアップを行った。地域と学生による買物対策の店舗実験の関連イベントとしてである。今年(2020年)は、小松明を300本から600本へ2倍に増やした。昨年は事前に学生と「コンタクト」の取れた地主の田のみで実施したが、今年は地元のメンバーがすべての地主から了解を取ってくれ、昨年実施できなかった部分にも設置することができた。また完成した獣害対策の防護柵にも缶をかけたたり、小松明で字を書くことも試みた。昨年はイベントの名前も無かったが、「奥嶽棚田千灯」という立派な名前もついた(奥嶽は小原地区を流れる川の名前から)。ポスターも作成し、積極的に宣伝したことで来場者も昨年より多く、盛況のうちに終わった。昨年は学生主体で、地域の方はそれを支援する、という形だったが、今年は学生が入り替わっていることもあり形勢が逆転し、地元の方主導のイベントとなった。地元の皆さんに負担をかけて心苦しい反面、活動が地域主体となることにはうれしい気持ちもある。過疎化、高齢化が進む中で、地域づくりには外部との連携は有効だが、過度に依存すると長続きしない場合がある。地域と学生のバランスを考えながら、息の長いイベントにしていきたい。



棚田散歩

アートは、人を、地域を元気にし、棚田や海など周囲の環境と豊かな関係性を形作る。そしてそれはアートを通じて人間が環境との関係性を取り戻すということでもある。棚田とアート。この二つは実に仲がいいのだ。

(現在スペイン・マドリッド在住 上野 宏之)

もうひとつは小豆島の中山千枚田にある「小豆島の光」。千枚田の尽きる谷底に、大きな竹のドームがある。やはり横たわって空をみあげたり棚田を眺めたりして、ひねもすボウツと過ごすことができるのだ。このアートとアートを包む「場」もやはり抜き差しならぬ関係にある。

ひとつは豊島の豊島美術館にある「母型」。棚田と瀬戸内の絶景に溶けるようにたつコンクリ打ちっぱなしのドーム型構造物。寝転がって森や空を眺める。床に這いつくばる。床のあちこちから細かい水滴が染み出し、もちろんと流れ、かつむすび、かつわかれ、水溜りを形成しやがて消えていく。同じ水の動きは二度とはおきない。この場所にこのアートがあることが必然に思えてくる。

ひとつは瀬戸内国際芸術祭は、瀬戸内の12の島と2つの港で開催される現代アートの祭典である。アーティストたちが過疎の島々の忘れられかけた歴史、文化、環境に学び、港、古民家、廃校になった小学校、そして棚田等を舞台に作品を制作する。「爺ちゃま、婆ちゃまの笑顔をみよう」をキーワードに、アートの力で、地域をよみがえらせようとする試みである。島の環境や景観に根差した作品の中から棚田ネット会員のハート直撃アートを二つだけ、ご紹介しよう。



中山千枚田「小豆島の光」
■瀬戸内国際芸術祭2013 秋会期
2013年10月5日(土)～11月4日(月)



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



2013年／日本／106分／監督:原村政樹／企画製作:桜映画社／語り:余貴美子

天に栄える村

福島第一原発から70km離れた福島県天栄村は、里山に囲まれた人口6000人ほどの小さな村。地元農家のグループ「天栄米栽培研究会」は、米の美味しさを競う「コンクール」で4年連続金賞を受賞。だが、2011年3月の原発事故で放出された放射性物質は、この村にも降り注ぎ、田畑は汚染されてしまった…。しかし農家を諦める訳にはいかない彼らは科学的な調査を元に、いち早く放射能汚染に立ち向かう。未曾有の環境破壊を乗り越えようとする農家たちの苦闘を追う。



丸山清明 監修

¥1,600 (税別)
誠文堂新光社
2013年2月

ゼロから理解する「コメの基本」

私たち日本人の主食である「お米」。あたりまえのように食べているこの食べ物のこと、いったい私たちはどれだけ知っているのだろうか? 「コメは何でできているの?」「コメのルーツ」など基本的な情報から、「コメの品種・食味」「コメの効用」「コメの加工品」「コメの栽培」「田んぼの働き」「コメの流通」「コメのビジネス」、さらには日本各地域の作付け品種や収穫量などを記載したデータ編など、お米をありとあらゆる角度から見つめた本。イラストや、写真、図解も豊富で、とても楽しく「お米」について学べます。食べるだけでなく作りたくなるかも!

今年も恒例佐渡ボランティアツアー

2013年7月13～15日 報告 宮越 恵一

“放鳥トキがやってくるかも”との熱い期待を込めて切り開いたビオトープでしたが、トキがやってくることはなく、ビオトープを維持している意味に疑問を感じつつも、まじめに草刈りしました。ちょうどお昼になったとたんに豪雨が降り、午後の作業は中止になりました。

近年は、参加者・地元受け入れ者ともに高齢化して労働時間がだんだん短くなり、それにもかかわらず夜の交流会は盛んで、楽しいグリーンツーリズムになっています。



好評だった棚田入門イベント

2013年9月20日 報告 上久保 郁夫

今回は久しぶりのさえずり館イベントでした。テーマは棚田入門コース「棚田へ行こう!」、講師は高桑事務局長。約20人の参加者は棚田の歴史や棚田保全の意義などスライドを交えた講義に熱心に聞き入っていました。約40分の講義の後には新米の試食会。千葉県鴨川市・川代棚田で穫れた新米、献米にも選ばれたことがあり話題になりやや小さめのおにぎり60個とお新香はあつというまに完食。棚田談義でおおいに盛り上がりしました。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

【お詫び】夏号に掲載した定期総会と春の講演会の報告記事の中で、お名前が間違っていました。「水垣大地」とさんと記載しましたが、正しくは「水柿大地」さんでした。お詫びして訂正します。

6月から棚田ネットワークの事務局のお手伝いをさせていただいております、＼＼です。棚田ネットワーク中島代表のゼミを卒業しており、棚田ネットワークの会員歴は結構古く、地元である千葉県の大山千枚田へは何度かお手伝いに行っていた時期もありました。

棚田はもちろん、里山全般に興味があるのですが、特に人間の手が入ることで保たれる、半自然の「生物多様性」の問題が最も興味があるところです。里山の薪炭林のあり方など、「サステイナビリティー（持続可能性）」の問題全般に関心があります。この事務局のお手伝いと並行して、地元千葉市内の谷津田保全の活動などを行っているNPO法人ちば環境情報センターの事務局の仕事にも不定期ながら顔を突っ込んでいます。

谷津・谷戸・谷地は、関東平野や東北の一部特有の地形のようなので、「谷津田」という言葉自体になじみのない方もおられるかも。棚田と谷津田は、地形の制限から不定形で大規模圃場整備が出来ず、大型農業機械が入れにくく、非効率なのでまっさきに耕作放棄が進むという点では、共通する課題も多いです。一方で千葉県北半、茨城南半一体の谷津田は、谷津に立って一見ただけではどちらが谷津の上流か下流かわからないほど傾斜はゆるやかである点は、棚田とは大きく違う点かもしれません。

経済効率優先、成長こそ正義、という世の中で忘れ去られてきた、本当の幸福感・充実感のあり方を、人口減少社会の中でどのように考えていくか、中山間地、地方の問題の本質は何なのか、今後とも考えていきたいです。コンクリート・ジャングルに疲弊した都市住民は「土とのふれあい」を求めています。こういう時代だからこそ、「手つかずの大自然」ではない、「手を入れてこそその里山自然」の魅力と大切さを体感し、発信して行きたいと思っています。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
Ken



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

体験稲刈りの中止



今夏は各地で、照れば灼熱、降れば豪雨や狭い地域に集中するゲリラ雨など、異常気象に見舞われました。岩ノ作棚田も例外ではなく、稲の生育にも影響がありました。そのため体験稲刈りの日程を当初の予定から変更したりして、関係各位に迷惑をかけました。さらに、変更した日の天気予報が大雨となり、再度の変更もままならず、最終的に今年の体験稲刈りは中止ということになりました。

体験田の稲刈りと、1本、2本、3本植え稲株のサンプリングは、地元の小林修一さんが引き受けてくださいました。現在、脱穀まで終了しています。サンプリングした稲株は、先日受け取り、事務所に運んであります。穂数や粒数のカウントを分担してくださる人を募集中です。皆さまのご支援、よろしくお願いいたします。(安井 一臣)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

こどもビオトープ観察会開催



「こどもビオトープ観察会～自然を楽しむ 棚田で生き物観察会～」が8月3日(土)10時から開催されました。参加者は坂折棚田のある中野方町の幼稚園、小学校低学年の男の子を中心にその保護者を含め約20名。

小学生から「話が長い」と注意されないよう、ビオトープとカエル類、特にヤマアカガエルを中心に説明は手短にしました。保護者の方に事故などについて注意をしてから虫取りの時間、30分ほどで再び集合しました。皆でどんなカエル、サワガニ、トンボ、バッタが捕れたか確認をし、暑い夏の日でしたので、予定していた11時半より早く、11時に解散しました。

(相田 明)

静岡県松崎町

昔ながらの米づくりプロジェクト

草刈り2回目～稲刈り



8月24・25日に、今年2回目の草刈り、草取り作業を行いました。前回の草刈りから1ヶ月半しか経っていないのに、棚田の畦は草がボウボウ！参加者8名の少数精鋭で、ひたすら草を刈りました。そして、10月5・6

日にいよいよ今年も稲刈りを迎えました。東京はシトシト雨、伊豆も雨予報だったので、参加者12名のほとんどが雨具を持参でしたが、西伊豆に入るなり、奇跡的な秋晴れ！沈んでいた気分が一転して、爽やかに8枚の田んぼの稲刈りとハザ掛け作業を完了しました。今年は暑かったのか、藁口（わらで作った水の落とし口）は、ほぼ完全に溶けてしまいました。次回11月24日(日)は、お楽しみの「新米を食べる会」！お待ちしております。(高桑 智雄)

今年も作りました!

使いつらい、だけど美しい!
始めてみよう『旧暦生活』

明治5年まで日本で使われていた旧暦は、月の満ち欠けを1ヶ月のサイクルとした太陰太陽暦。
『棚田ごよみ』は、来年1月1日が、新暦1月31日から始まる本当の旧暦カレンダーです。

平成26年版
『旧暦棚田ごよみ』
写真:青柳健二
サイズ:A4(開くとタテA3サイズ)

¥1,000(税込)

贈答用にどうぞ!

5部セット ¥4,500(税込)



26年版は
『閏九月』が
入って
13ヶ月に!



四季折々の
棚田風景

二十四節気
七十二候
雑節を表示

新暦表示
もあり!

月の
満ち欠け
イラスト
入り!

初回特典

二十四節気
七十二候一覧
付いてます!
(ポスター型)

ご購入は



NPO法人
棚田ネットワーク

TEL/FAX:03-5386-4001

E-mail: koyomi@tanada.or.jp

●Webサイトからのご注文もできます。

www.tanada.or.jp/tanadanetwork/goods/

※上記QRコードからも注文サイトへ行けます。

※特典はなくなり次第終了させていただきます。※デザインは予告無く変更する場合があります。

イベント情報! 11月14日(木) 18:30~ 写真家 青柳健二さんが、棚田と旧暦のお話をしてくれます! 場所:丸の内えすり館(詳しくは www.m-neture.info)



わたしたちと『棚田の応援団』やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。

消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
イベント情報、ブログ等
随時更新中!!



http://www.tanada.or.jp

棚田に吹く風

2013年 秋号 Vol.90

発行



NPO法人

棚田ネットワーク

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号

Tel / Fax 03-5386-4001

e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp

郵便振替口座: 00100-7-151565